様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	人間形成コース	記載責任者	山崎　勝之

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

1．目標・計画

本コースは学士課程をもたないので、大学院に特化した課題になる。基本的には、ゼミ単位で、教員採用にむけて、情報の詳細かつ円滑な提供のもと、教員採用試験への準備、進展状況のモニターを本人ならびに教員により定期的に実施することになる。その他、本コースに在籍する現職教員との交流を盛んにして、現場からの情報と支援の機会とし、学生の動機つけを同時に高めたい。
また、各教員は教職についている修了生と現役学生との交流の場を積極的に設け、ここでも学校現場からの生の情報を提供し、直接的な支援の機会を作りたい。

2．点検・評価

本コースにおける教員就職支援では、長期履修学生を中心に各ゼミ単位で効果的な指導を実施してきた。コース会議においては、教員同士の支援、指導の状況を確認し合い、また互いにサポートを展開し、各ゼミに固有の支援上の不備が即刻解消されるような支援体制を確立して運用してきた。その結果、学校教員の就職では十分ではなかったものの、各学生にとってよい環境と指導を提供できたものと思われる。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

本コースは、長期履修生を含めて、教員志望の学生の占有率がきわめて高い。しかし他にも、博士課程進学や心理職希望の学生もいる。この多様な学生の進路ニーズに応えるため、学生の進路希望にあわせた研究室所属や指導を徹底させる。教職志望者への支援は上記のとおりであるが、人数が少ない進学や公務員志望の学生などには個人的な指導の機会を増やしたい。また、本コースには、現職教員も複数名在籍するため、教職力UPのために、理論面から実践面まで幅広い支援を行う。
また、学生生活における健康面や適応面では細心の注意を払い、充実した学生生活を過ごさせる援助は重視したい。

2．点検・評価

ゼミ所属学生を指導する中、学生の健康と適応には十分に注意を払い対応してきた。その結果、健康・適応上の問題は生まれず、満足できる結果となった。また、本コースで重視する学生の進路ごとのきめ細かい対応でも、その多様な進路希望にもかかわらず個別の適切な対応ができたものと判断する。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

本コース教員の研究特徴の一つは、国際色が豊かであることである。所属の多くの教員は、海外に研究拠点をもち、海外の研究者と共同で研究を展開している。この点は、本学でも特記すべき特徴となるので今後も推進したい。今一つは、学校現場に接点をもった研究が充実していることである。多くの教員が、学校との連携のもと、授業実施や授業実施支援を行っている。その実施範囲は広く、また長期間にわたっている場合が多い。この学校との共同による研究も本コースの重要特徴であり、引き続き充実させたい。

2．点検・評価

本コースの特色どおり、各教員は国際的な活動を展開し、海外研究者との共同、海外での学会発表などを加速させることができた。また、学校現場と接点をもった活動も際立ち、長期にわたる共同をもって教育や研究を展開することができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

各教員が大学運営では重要な任務を果たしており、今年度も継続する。学校への先進的教育の展開と普及、新規大学カリキュラムの開発など、その活動は多様である。今年度も、この方向を進め、大学の社会的貢献への必要性が高まるなか、本コースはこの先導的役割を果たしたい。

2. 点検・評価

各教員は、委員会活動やセンター活動には真摯に従事し、大学の特徴である学校教育実践を加速することができ、この点では十分に大学運営に貢献したものと判断される。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

附属学校との共同、学校を中心とした連携、海外研究者や教育者との交流、いずれをとっても本コースは充実していて、これまでの路線継続して歩みたい。

2. 点検・評価

学校を中心とした社会連携は十分に行われ、海外研究者や教育者との交流も充実し、これまでの路線を継承することができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）